

しとぎょうでん あらし なか やす 使徒行伝：嵐の中で安らぐ

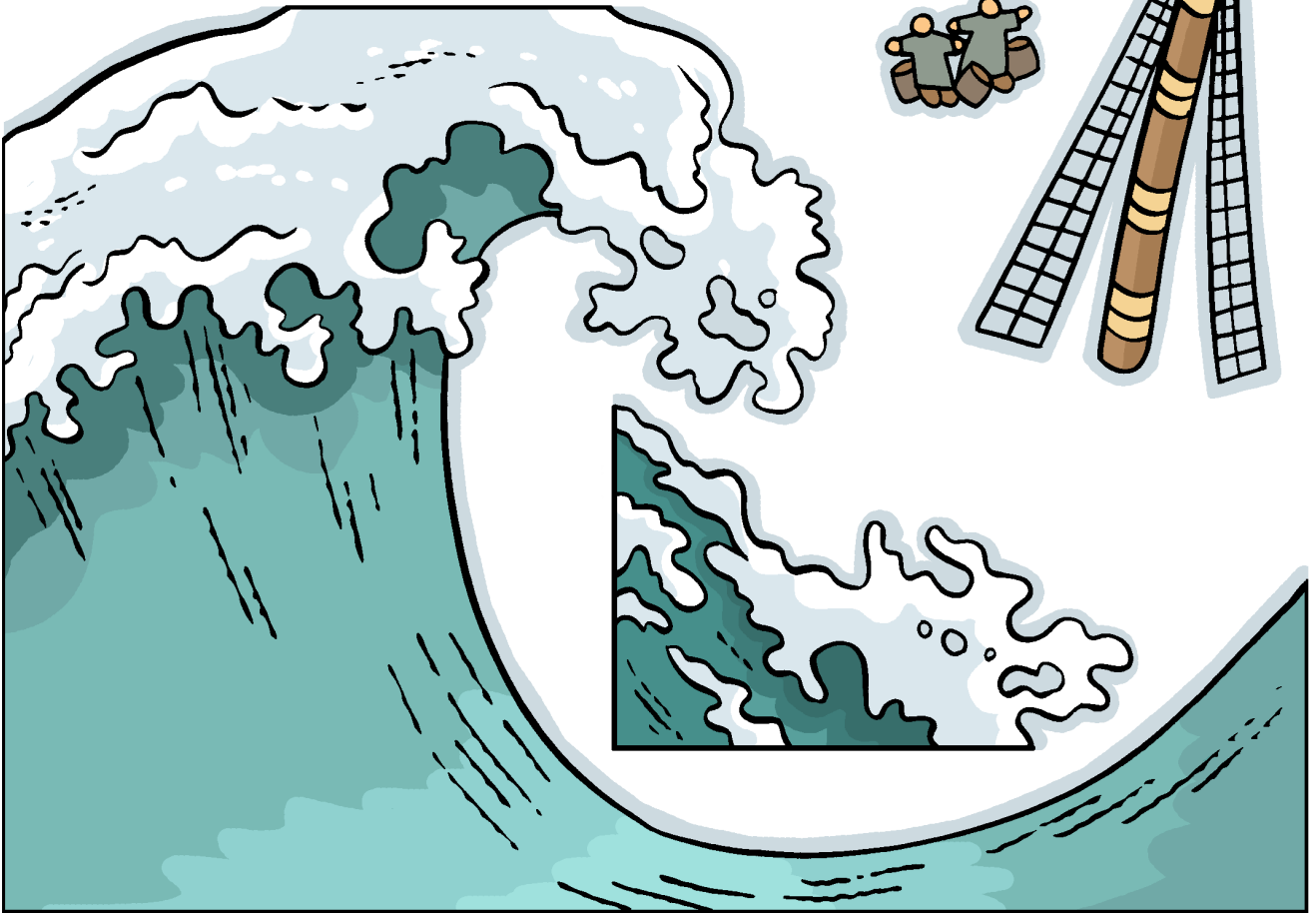
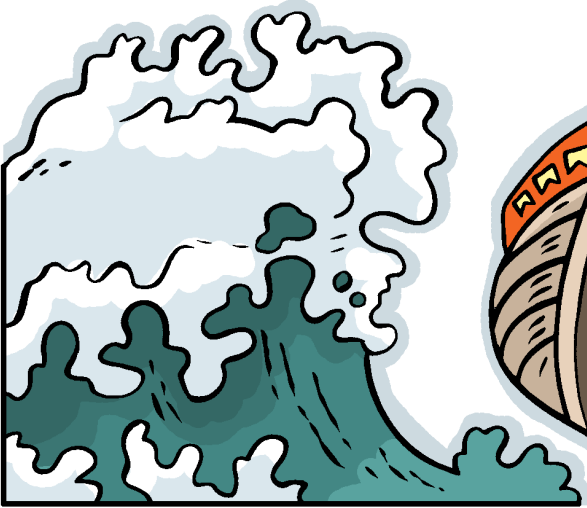
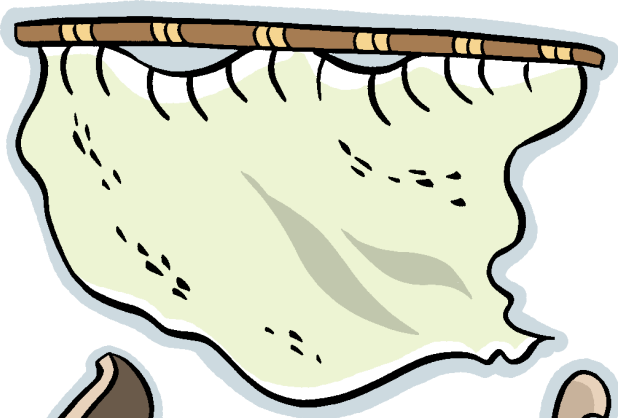
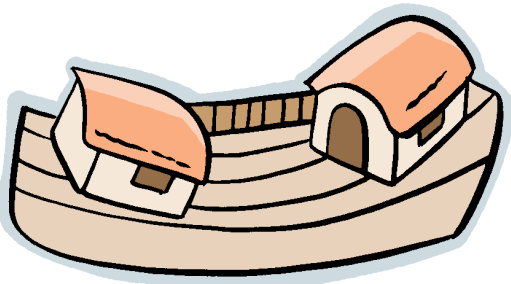
しとぎょうでん だい しやう
(使徒行伝 第27章)

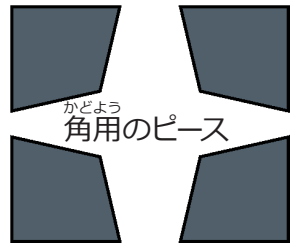
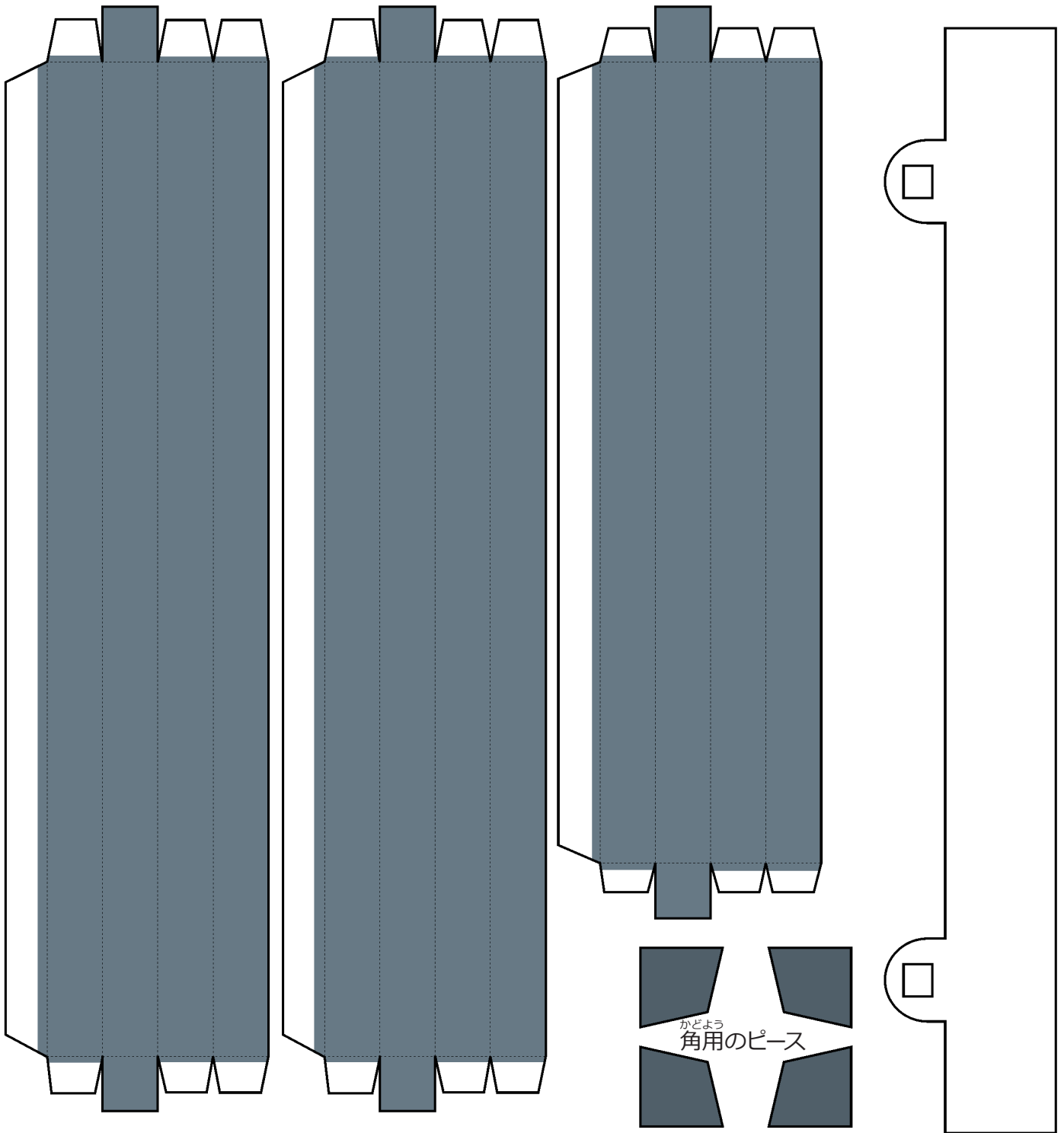
ローマへの長くて困難な旅の間、パウロの世話は、数人の囚人たちをローマに護送することになっていたローマ皇帝直属部隊の百人隊長ユリアスに任されていました。ある時、クレタ島の近くで、彼らの乗っていた船は壊滅的な嵐に巻きこまれてしまいました。

船は波に打ちつけられてはげしくゆれました。船に乗っていた人たちは、船底が暗礁に乗り上げないように、船を軽くするため、積荷や、最後には船具まで、海に投げ捨てました。はげしい嵐で、太陽も星も見えない日が何日も続きました。

乗組員や乗客は、助かる望みをすべて失ってしまいました。けれどもパウロは、みんなに勇気を出すようにと言います。そして、神様からの天使が夜の間に現れて、船に乗っている人たちが全員助かると告げられたことを話しました。

2週間も嵐が続いた後、船は陸の近くで暗礁に乗り上げ、乗っていた全員が、無事に陸地に着いたのです。



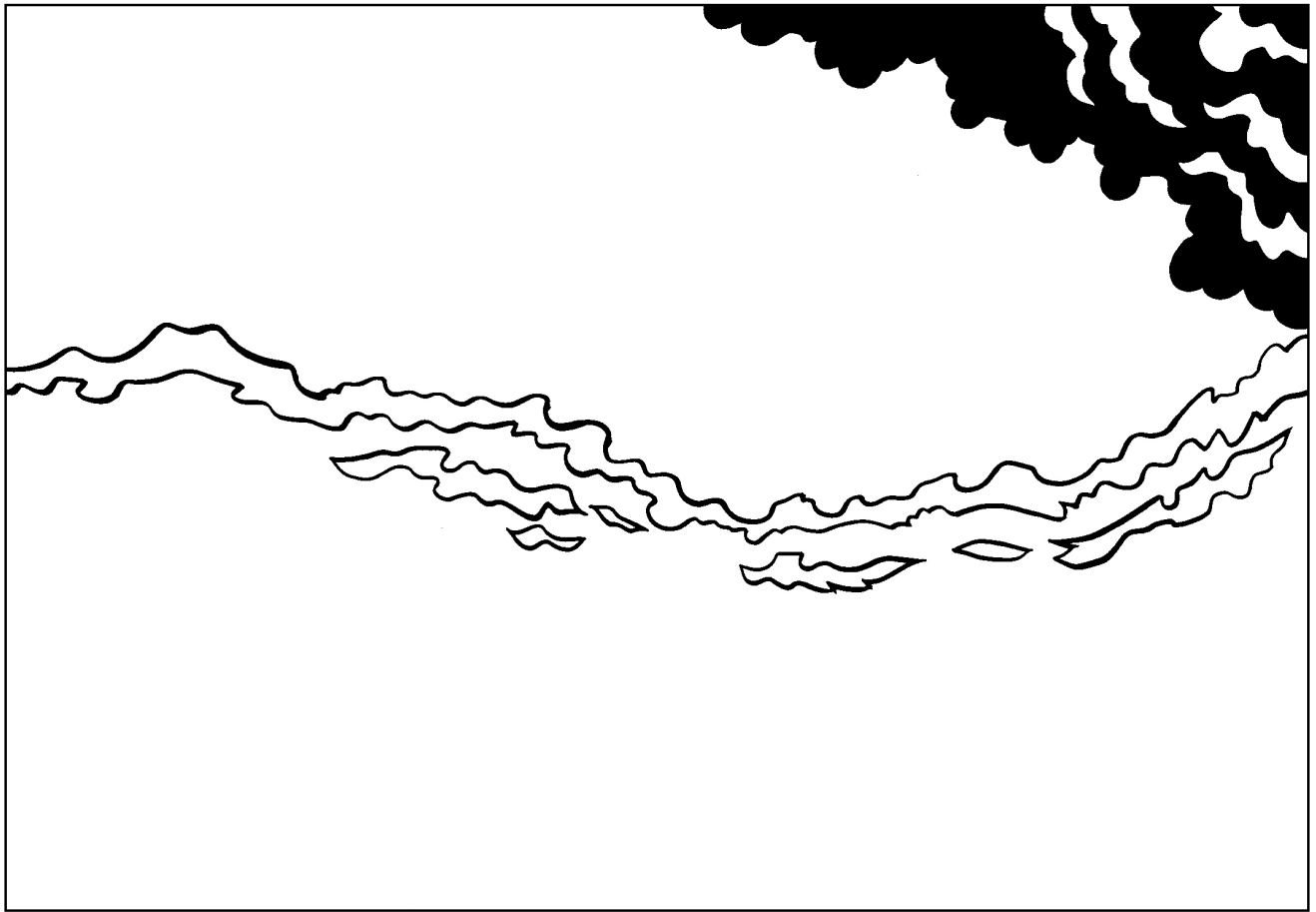


かどよう
角用のピース



よう
フレーム用のピース

ひも ^つ紐を付けた後 ^{あと}には ^つ貼り付けるピース
シャドーボックスの ^{つく}作り方は ^{かた}[こちら](#)



しとぎょうでん あらし なか やす 使徒行伝：嵐の中で安らぐ

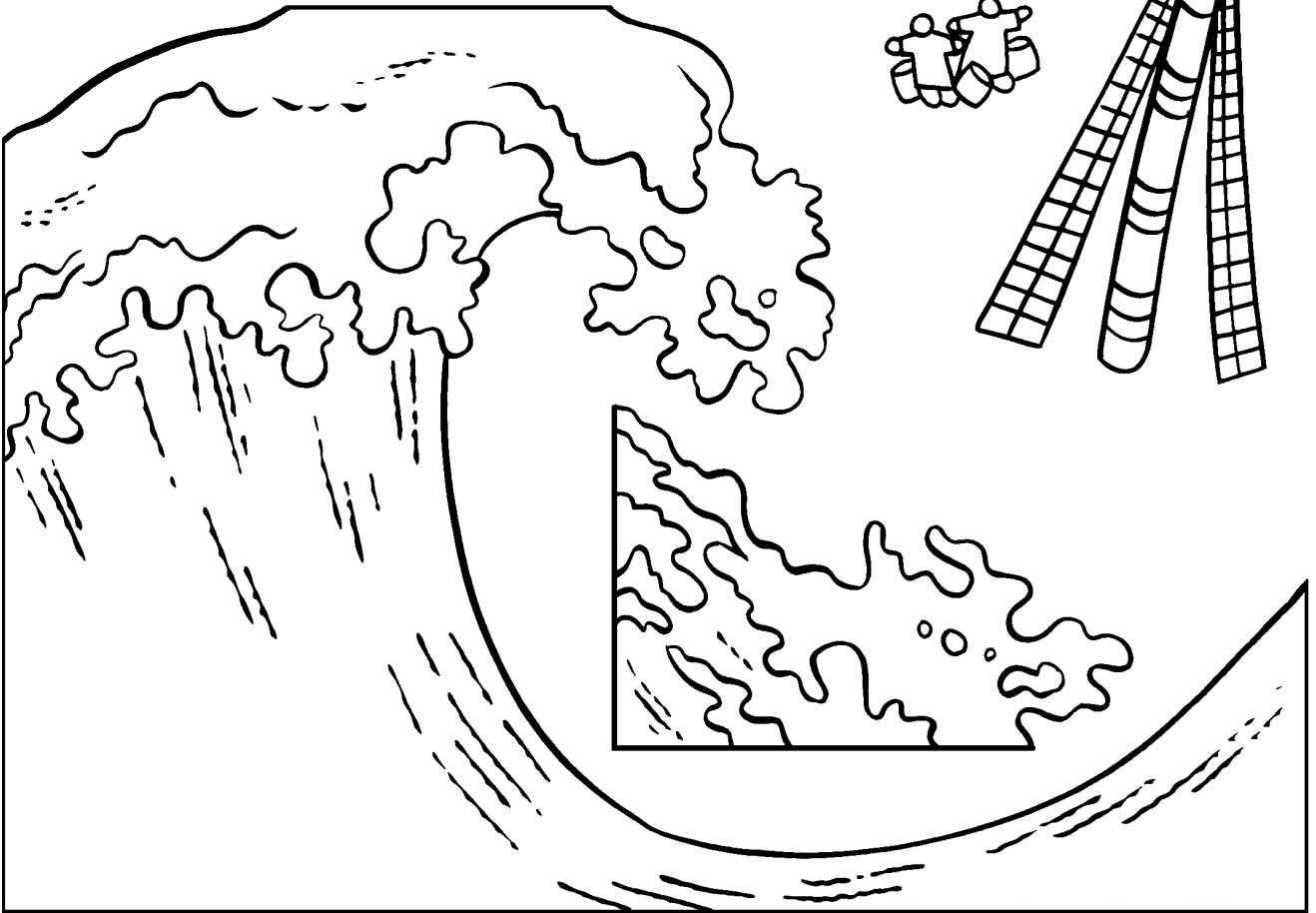
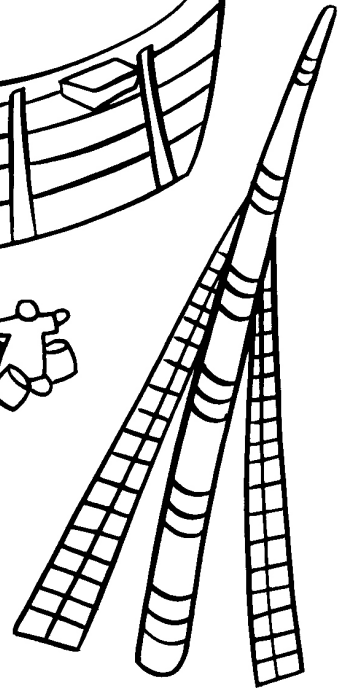
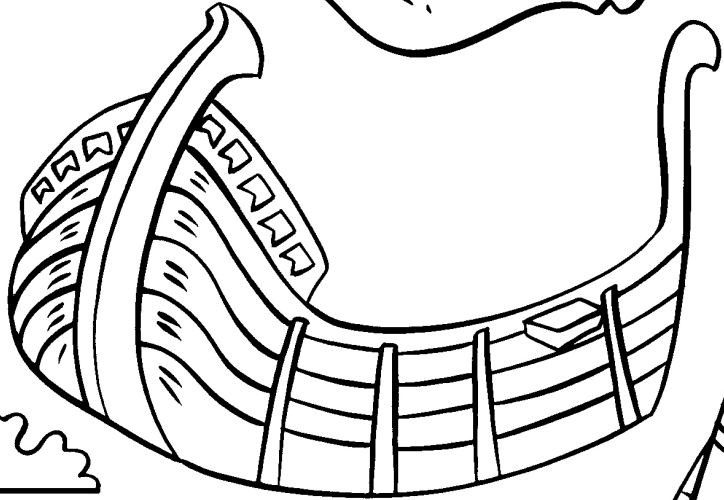
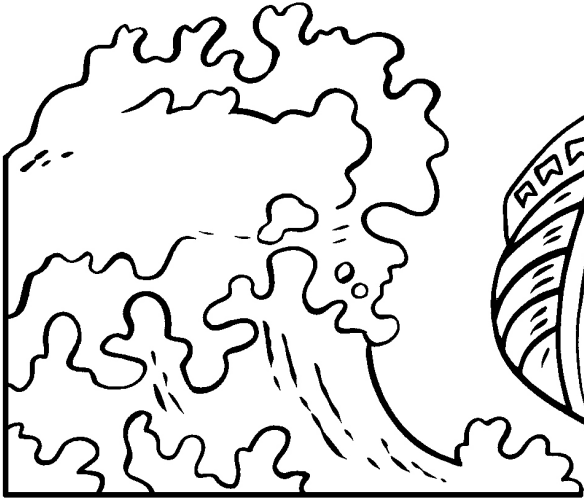
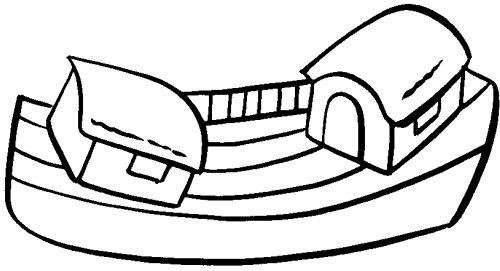
しとぎょうでん だい しよう
(使徒行伝 第27章)

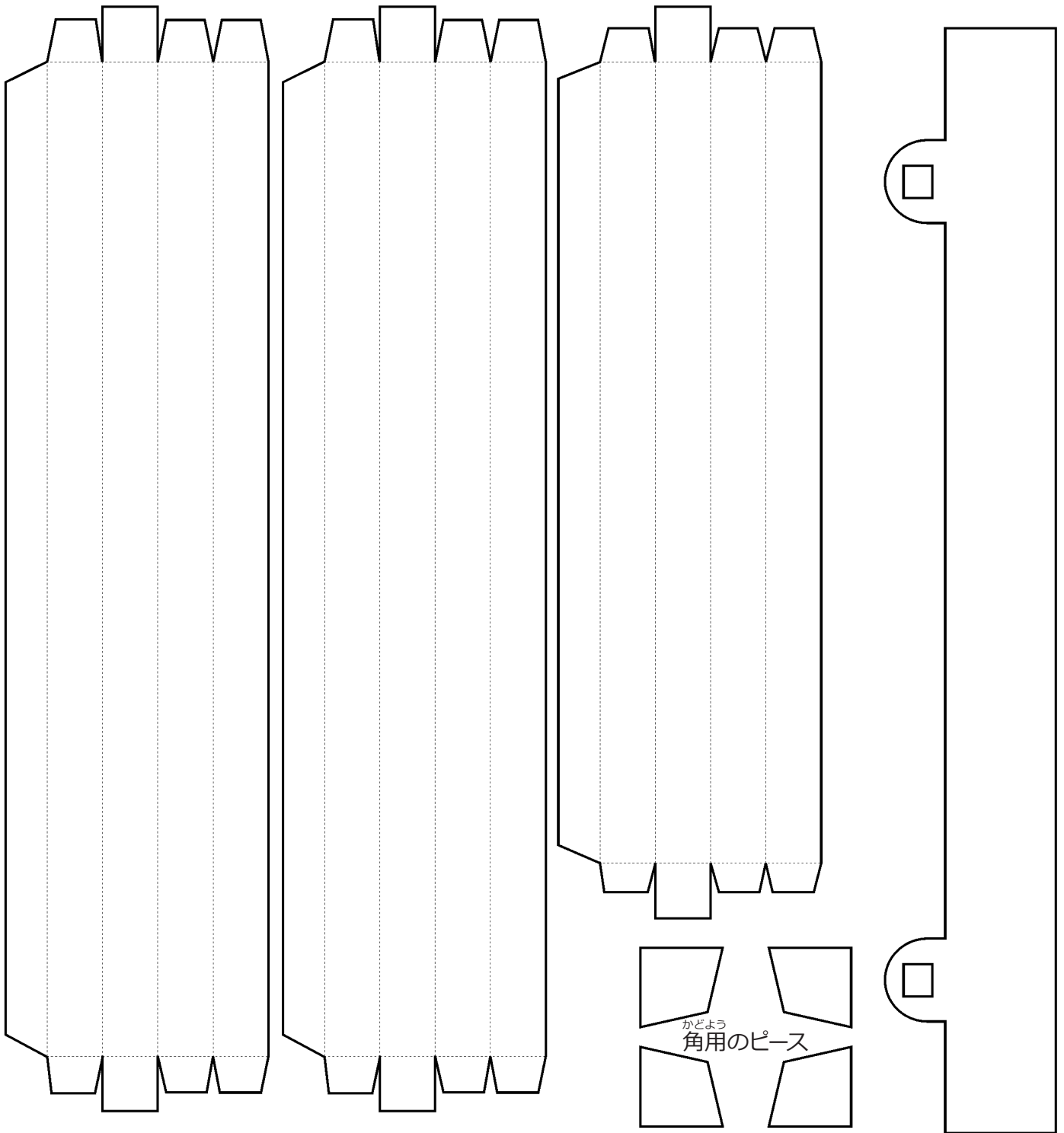
ローマへの^{なが}長くて^{こんなん}困難な^{たび}旅の間、パウロの^{せわ}世話は、^{すうにん}数人の^{しゆうじん}囚人たちを
ローマに^{ごそう}護送することになっていた。ローマ皇帝直属部隊の^{ひやくにんたいちよう}百人隊長
ユリアスに^{まか}任されていました。ある^{とき}時、クレタ島の^{ちか}近くで、^{かれ}彼らの^の乗っていた
^{ふね}船は^{かいめつてき}壊滅的な^{あらし}嵐に^ま巻きこまれてしまいました。

^{ふね}船は、^{なみ}波に^う打ちつけられてはげしく^{ふね}ゆれました。船に^の乗っていた^{ひと}人たちは、
^{ふなぞこ}船底が^{あんしよう}暗礁に^の乗り上げないように、^{ふね}船を^{かる}軽くするため、^{つみに}積荷や、^{さいご}最後には
^{せんく}船具まで、^{うみ}海に^な投げ捨てました。はげしい^{あらし}嵐で、^{たいよう}太陽も^{ほし}星も^み見えない^ひ日が
^{なんにち}何日も^{つづ}続きました。

^{のりくみいん}乗組員や^{じようきやく}乗客は、^{たす}助かる^{のぞ}望みを^{うしな}すべて失ってしまいました。けれども
パウロは、^{ゆうき}みんなに^だ勇気を出すようにと^い言います。そして、^{かみさま}神様からの^{てんし}天使が
^{よる}夜の^{あいだ}間に^{あらわ}現れて、^{ふね}船に^の乗っている^{ひと}人たちが^{ぜんいん}全員^{たす}助かると^つ告げられたことを
^{はな}話しました。

^{しゆうかん}2週間も^{あらし}嵐が^{つづ}続いた^{あと}後、^{ふね}船は^{りく}陸の^{ちか}近くで^{あんしよう}暗礁に^の乗り上げ、^の乗っていた
^{ぜんいん}全員が、^{ぶじ}無事に^{りくち}陸地に^つ着いたのです。





かどよう
角用のピース



フレーム用のピース

ひもをつあと
紐を付けた後に
はつ
貼り付けるピース
シャドーボックスの
つくかた
作り方は[こちら](#)